

2020年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社クラウドワークス 上場取引所 東  
 コード番号 3900 URL https://crowdworks.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉田 浩一郎  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)野村 真一 (TEL) 03 (6450) 2926  
 定時株主総会開催予定日 2020年12月25日 配当支払開始予定日 -  
 有価証券報告書提出予定日 2020年12月28日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期の連結業績 (2019年10月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期	8,728	△0.2	△298	-	△311	-	△53	-
2019年9月期	8,749	31.9	48	104.1	67	591.6	△127	-
(注) 包括利益	2020年9月期		△27百万円 (-%)		2019年9月期		△177百万円 (-%)	

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年9月期	△3.51	-	△1.7	△5.5	△3.4
2019年9月期	△8.63	-	△4.8	1.1	0.5

(参考) 持分法投資損益 2020年9月期 -百万円 2019年9月期 -百万円

(注) 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、新株予約権の残高はありますが、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年9月期	5,108	3,127	61.2	205.38
2019年9月期	6,328	3,245	50.4	209.51

(参考) 自己資本 2020年9月期 3,126百万円 2019年9月期 3,186百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年9月期	△0	536	△383	3,418
2019年9月期	346	△162	198	3,266

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2020年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2021年9月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00		-	

3. 2021年9月期の連結業績予想（2020年10月1日～2021年9月30日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,264	△33.2	赤字		-		-		-
	～3,418	～△30.1							
通期	7,003	△19.8	黒字		-		-		-
	～7,507	～△14.0							

（注）2021年9月期の業績予想における増減率につきましては、2020年9月期第4四半期に受託事業の子会社2社を売却・撤退したため、当連結会計年度の当社グループの増減率はマイナスとなるものの、コア事業であるマッチング事業の成長路線は継続しております。マッチング事業およびその他新規事業の業績予想に関する事項は、添付資料P5.「1. 経営成績の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 -社（社名）、除外 -社（社名）

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無  
② ①以外の会計方針の変更： 無  
③ 会計上の見積りの変更： 無  
④ 修正再表示： 無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期	15,225,160株	2019年9月期	15,210,160株
② 期末自己株式数	2020年9月期	86株	2019年9月期	48株
③ 期中平均株式数	2020年9月期	15,218,184株	2019年9月期	14,793,011株

（参考）個別業績の概要

1. 2020年9月期の個別業績（2019年10月1日～2020年9月30日）

（1）個別経営成績（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期	5,458	16.9	△364	-	△331	-	△105	-
2019年9月期	4,669	32.0	53	-	119	-	△98	-

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期	△6.91	-
2019年9月期	△6.69	-

（注）「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、新株予約権の残高はありますが、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

（2）個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	
2020年9月期	5,038	3,153	3,152	3,152	62.6	207.09	
2019年9月期	5,075	3,235	3,233	3,233	63.7	212.56	

（参考）自己資本 2020年9月期 3,152百万円 2019年9月期 3,233百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	1
(1) 当期の経営成績の概況 .....	1
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	2
(4) 今後の見通し .....	3
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	3
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 連結貸借対照表 .....	4
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	6
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(表示方法の変更) .....	12
(セグメント情報等) .....	14
(1株当たり情報) .....	16
(重要な後発事象) .....	16

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当社グループは『働き方革命～世界で最もたくさんの人に報酬を届ける会社になる』というビジョンを掲げ、創業以来、インターネットを活用して個人が報酬を得るための仕組みであるクラウドソーシングを中心としたオンライン人材マッチング事業を推進しております。近年、政府の掲げる「一億総活躍社会実現」における最大のテーマ「働き方改革」に沿って、潜在労働力となっている女性やシニア、障がい者などの活躍の機会拡大、会社員の副業・兼業など、企業に勤める以外の働く選択肢が広がり、個人の働き方への価値観は多様化しつつあります。また、2019年4月より「働き方改革関連法」が順次施行され、2020年4月には同一労働同一賃金の施行、2021年4月の高年齢者雇用安定法の改正による70歳までの雇用延長など、従来の雇用制度を見直す動きが広がっております。

こうした流れを受け、従来の枠にとらわれない形で人材獲得を進めたい企業が増加しているほか、日本を代表する大企業も自社の従業員の収入増加、モチベーションの向上、優秀な人材の確保・定着などを目的として、従業員の副業・兼業を容認する動きが広がっております。また、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大を受け、企業規模・業種を問わず多くの企業において在宅勤務やテレワークを導入・活用する動きが広がり、新しい働き方・新しい生活様式（ニューノーマル）に対応していく動きが社会全体で広がりつつあります。これにより、外部の専門人材（フリーランス・副業者・兼業者）の受け入れやインターネットを介して働くクラウドワーカーの活用など、今後の企業の人材調達の方法が変化し、当社を取り巻く市場にとって追い風となっております。このような環境のもと、当連結会計年度は2019年9月期末に策定した投資方針に従い、当社のコア事業であるマッチング事業への選択と集中を推し進めました。

マッチング事業においては、先行投資による成長率の向上を目指す一方で、新型コロナウイルスの影響により一部クライアントの契約停止や新規クライアントの獲得難航等の影響が発生しましたが、第4四半期以降は新規クライアントの獲得状況も回復基調となり、通期業績において期初予算を達成いたしました。また、エンジニア・デザイナー等の人材が不足する企業からの需要は高く、インターネットを介したフリーランスやクラウドワーカーの活用は今後も増加する見込みであり、引き続き成長が見込まれます。また、コロナ禍を経て、多くの企業でテレワークの導入や業務のデジタル化が進み、オンラインによる事務アシスタントの需要も増加しており、高単価×高継続のハイエンド人材マッチングが好調であります。

受託事業においては、当連結会計年度の方針のもと事業縮小を行いながら営業黒字を実現したほか、第4四半期に子会社2社を売却、受託事業から撤退したことにより、2021年9月期にむけた効率的な経営体制を構築いたしました。なお子会社の売却に伴い、関係会社株式売却益（特別利益）を計上しております。

以上の結果、当連結会計年度の当社グループの業績は、売上高8,728,350千円（前年同期比0.2%減）、営業損失は298,359千円（前年同期は営業利益48,020千円）、経常損失は311,993千円（前年同期は経常利益67,252千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は53,347千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失127,604千円）となりました。

報告セグメントについては、当連結会計年度より報告セグメントを変更しており、以下の前年同期比数値については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

セグメント業績については、次のとおりであります。

#### ① マッチング事業

当連結会計年度のマッチング事業においては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により先行き不透明な経済情勢が続く中、第3四半期に新規クライアントの獲得や一部のクライアントの契約に影響が出たことで、一時的な成長スピードの鈍化影響がありました。第4四半期以降は回復基調となり、売上高・売上総利益については期初開示予想である+20%を上回る着地となりました。販管費については、クライアント数ならびに発注量の拡大のため、TVCMとWEB広告による積極的な投資を実施し、TVCMについては年間2.4億円、WEB広告については昨年度比+50%以上となる、6億円超の投資を計画通り実行いたしました。一方で、広告宣伝費以外の費用については生産性向上に取り組み、間接販管費を期初予算比で3.5億円削減することに成功、捻出した資金で再投資を行ったことで期初計画に対して売上総利益は達成し、営業赤字幅も縮小となりました。この結果、売上高は6,302,964千円（前年同期比23.3%増）となり、セグメント損失は249,791千円（前年同期のセグメント損失は11,997千円）となりました。

## ②受託事業

当連結会計年度の受託事業においては、選択と集中の方針のもと事業縮小と黒字維持に取り組み、上半期のシステム開発受託案件の納品・検収が想定を上回ったことや、全社的なコストの見直しを進めたことで営業黒字を達成しました。加えて、第4四半期には受託事業の子会社2社を売却し、事業縮小を図りました。これにより売上高は2,280,574千円（前年同期比30.4%減）となり、セグメント利益は80,695千円（前年同期比44.3%増）となりました。

## ③ビジネス向けSaaS事業

当連結会計年度のビジネス向けSaaS事業においては、企業向けの業務管理ツールを提供しております。新規契約社数の増加による順調な成長と、さらなる成長拡大に向けた新機能開発やサービス改善の先行投資を実施しております。このため売上高は71,675千円（前年同期比29.5%増）となり、セグメント損失は88,780千円（前年同期のセグメント損失は23,425千円）となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

当連結会計年度末における総資産は5,108,916千円となり、前連結会計年度末に比べ1,219,667千円減少しました。総資産の減少は主に第4四半期に連結子会社2社を売却したことによるものであります。流動資産は4,759,085千円となり、主な内訳は現金及び預金が3,413,627千円、受取手形及び売掛金が669,371千円であります。固定資産は349,830千円となり、主な内訳は有形固定資産が73,070千円、無形固定資産が53,215千円、投資有価証券50,991千円であります。

## (負債)

当連結会計年度末における負債は1,981,690千円となり、前連結会計年度末に比べ1,101,536千円減少となりました。負債の減少は主に第4四半期に連結子会社2社を売却したことによるものであります。流動負債は1,948,682千円となり、主な内訳は、預り金が1,027,633千円、未払金が513,835千円であります。固定負債は33,007千円となっております。

## (純資産)

当連結会計年度末における純資産は3,127,226千円となり、前連結会計年度末に比べ118,131千円減少しました。純資産の減少は当期純損失の計上によるものであります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は3,418,919千円と前連結会計年度と比べ152,477千円の増加となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果による支出は、989千円（前連結会計年度は346,433千円の収入）となりました。主なキャッシュ・フローの増加要因は未払金の増加162,904千円、預り金の増加161,539千円、減価償却費48,996千円、のれん償却額67,460千円、賃貸借契約解約損11,631千円及び投資有価証券評価損59,999千円であります。一方で主な減少要因は、税金等調整前当期純損失74,178千円の計上、関係会社株式売却益309,446千円、売上債権の増加28,755千円、仕入債務の減少54,174千円、未収入金の増加59,811千円であります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果による収入は536,584千円（前連結会計年度は162,648千円の支出）となりました。主なキャッシュ・フローの増加要因は定期預金の払戻による収入86,078千円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入581,047千円であります。一方で主な減少要因は、定期預金の預入による支出38,903千円、投資有価証券の取得による支出50,991千円、有形固定資産の取得による支出19,758千円及び無形固定資産の取得による支出13,446千円

であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果による支出は、383,118千円(前連結会計年度は198,067千円の収入)となりました。主なキャッシュ・フローの増加要因は長期借入れによる収入260,000千円及び株式発行による収入2,700千円であります。一方で主な減少要因は、長期借入金の返済による支出273,683千円、社債の償還による支出288,000千円及び連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出82,000千円であります。

#### (4) 今後の見通し

企業の人材不足と多様な働き方を求める社会的機運の高まりにより、国内のオンライン人材マッチング市場は今後も中長期的に拡大が続くと想定されます。2021年9月期はこれまで進めてきた選択と集中の方針のもと、マッチング事業に集中する方針は変わらず、事業への投資集中・投資継続を図りながら、生産性向上と事業構造改革に取り組み、通期黒字化を目指す方針です。また、グループ企業である株式会社ブレンパートナーを吸収合併し、受託事業の子会社2社を売却、また、2021年9月期に株式会社ビズアシ、株式会社gravieeの吸収合併を行うことで、単体経営に移行する予定です。これによりマッチング事業への集中を強化するとともに、将来の成長の柱を築くための投資として、生み出した利益の中から新規事業への再投資を図ることで、利益創出と合わせて持続的な成長を両立していく方針です。なお、受託事業については、子会社2社の売却により、2021年9月期は撤退しております。

新型コロナウイルスの影響につきましては、世界的な感染長期化に伴う景気後退も懸念されており不確実な状況は続きますが、現時点で今後の成長戦略に変更はありません。

以上により、2021年9月期の当社グループの業績につきましては、総契約額は134.8億円～140.5億円(△11.4%～△7.7%成長)、売上高は70.0億円～75.0億円(△19.8%～△14.0%成長)、売上総利益は30.7億円～32.1億円(△7.5%～△3.3%成長)、営業利益は黒字の見込みです。営業利益においてはマッチング事業への集中体制の中、連結から単体経営への移行、事業の構造改革を推進し利益創出を図ります。なお、2020年9月期第4四半期に受託事業の子会社2社を売却・撤退したため、当連結会計年度の当社グループの増減率はマイナスとなるものの、コア事業であるマッチング事業の成長路線は継続しております。

セグメント別の業績につきましては、2021年9月期のマッチング事業の総契約額は134.1億円～139.8億円(+5.0%～+10%成長)、売上高69.3億円～74.3億円(+10.0%～+18.0%成長)、売上総利益30.2億円～31.6億円(+10.0%～+15.0%成長)、営業利益は2億円以上の黒字見込みとなります。2021年9月期は引き続き生産性向上に取り組み、マッチング事業における利益化を行い、生み出した利益の範囲内で再投資を行うことで、利益創出を行いながら持続的な成長を図るための体制づくりを推し進めます。また、ビジネス向けSaaS事業およびその他において、将来の成長に向けた投資として新規事業についても積極的に取り組む方針であり、当社グループの通期黒字化の範囲内で早期の事業立ち上げと収益化を目指し、総契約額・売上高は0.7億円、売上総利益は0.5億円、営業利益は△2億円となる見込みです。

なお本見通しは、新型コロナウイルスの感染再拡大により緊急事態宣言等が再発令されないことを前提としております。

#### (5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、期間及び企業間の財務諸表等の比較可能性を考慮し、日本基準にて当面は財務諸表を作成する方針であります。なお、IFRSの適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,411,499	3,413,627
受取手形及び売掛金	995,201	669,371
未収入金	502,393	562,159
営業投資有価証券	59,584	51,148
その他	264,252	76,076
貸倒引当金	△12,364	△13,298
流動資産合計	5,220,567	4,759,085
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	123,137	103,362
減価償却累計額	△46,313	△54,419
建物及び構築物(純額)	76,823	48,943
工具、器具及び備品	58,253	49,671
減価償却累計額	△34,474	△29,866
工具、器具及び備品(純額)	23,779	19,804
車両運搬具	1,213	-
減価償却累計額	△1,213	-
車両運搬具(純額)	0	-
建設仮勘定	-	4,323
有形固定資産合計	100,603	73,070
無形固定資産		
のれん	655,837	12,909
その他	37,618	40,306
無形固定資産合計	693,455	53,215
投資その他の資産		
投資有価証券	89,682	50,991
その他	239,730	174,038
貸倒引当金	△15,454	△1,485
投資その他の資産合計	313,957	223,544
固定資産合計	1,108,016	349,830
資産合計	6,328,583	5,108,916

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	183,047	-
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	282,473	648
1年内償還予定の社債	308,000	-
未払金	379,502	513,835
預り金	876,781	1,027,633
その他	502,829	306,565
流動負債合計	2,632,633	1,948,682
固定負債		
長期借入金	257,715	-
社債	40,000	-
その他	152,877	33,007
固定負債合計	450,592	33,007
負債合計	3,083,226	1,981,690
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,687,217	2,688,567
資本剰余金	2,645,880	2,615,484
利益剰余金	△2,144,759	△2,198,107
自己株式	△64	△120
株主資本合計	3,188,274	3,105,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,645	21,052
その他の包括利益累計額合計	△1,645	21,052
新株予約権	2,440	350
非支配株主持分	56,288	-
純資産合計	3,245,357	3,127,226
負債純資産合計	6,328,583	5,108,916

## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
売上高	8,749,813	8,728,350
売上原価	5,626,641	5,405,781
売上総利益	3,123,172	3,322,568
販売費及び一般管理費	3,075,151	3,620,927
営業利益又は営業損失(△)	48,020	△298,359
営業外収益		
預り金失効益	18,794	35,887
助成金収入	3,600	11,117
保険解約返戻金	7,778	1,486
その他	7,952	7,327
営業外収益合計	38,124	55,819
営業外費用		
支払利息	11,201	4,520
株式交付費	3,708	-
支払手数料	-	52,868
その他	3,982	12,063
営業外費用合計	18,892	69,453
経常利益又は経常損失(△)	67,252	△311,993
特別利益		
投資有価証券売却益	26,546	-
新株予約権戻入益	11	-
関係会社株式売却益	-	309,446
特別利益合計	26,557	309,446
特別損失		
固定資産除却損	1,113	-
減損損失	96,440	-
投資有価証券評価損	2,110	59,999
契約解約損	81,429	-
賃貸借契約解約損	-	11,631
特別損失合計	181,094	71,631
税金等調整前当期純損失(△)	△87,285	△74,178
法人税、住民税及び事業税	42,333	62,392
法人税等調整額	42,519	△86,515
法人税等合計	84,853	△24,123
当期純損失(△)	△172,138	△50,054
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	△44,534	3,292
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△127,604	△53,347

## 連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
当期純損失(△)	△172,138	△50,054
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,458	22,698
その他の包括利益合計	△5,458	22,698
包括利益	△177,596	△27,356
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△133,062	△30,649
非支配株主に係る包括利益	△44,534	3,292

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,090,457	2,049,120	△2,017,155	—	2,122,422
当期変動額					
新株の発行	596,760	596,760			1,193,520
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△127,604		△127,604
自己株式の取得				△64	△64
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	596,760	596,760	△127,604	△64	1,065,851
当期末残高	2,687,217	2,645,880	△2,144,759	△64	3,188,274

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	3,812	3,812	372	100,822	2,227,430
当期変動額					
新株の発行					1,193,520
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)					△127,604
自己株式の取得					△64
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△5,458	△5,458	2,068	△44,534	△47,924
当期変動額合計	△5,458	△5,458	2,068	△44,534	1,017,927
当期末残高	△1,645	△1,645	2,440	56,288	3,245,357

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,687,217	2,645,880	△2,144,759	△64	3,188,274
当期変動額					
新株の発行	1,350	1,350			2,700
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△31,746			△31,746
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△53,347		△53,347
自己株式の取得				△56	△56
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	1,350	△30,396	△53,347	△56	△82,450
当期末残高	2,688,567	2,615,484	△2,198,107	△120	3,105,823

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△1,645	△1,645	2,440	56,288	3,245,357
当期変動額					
新株の発行					2,700
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					△31,746
親会社株主に帰属する当期純損失(△)					△53,347
自己株式の取得					△56
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	22,698	22,698	△2,090	△56,288	△35,680
当期変動額合計	22,698	22,698	△2,090	△56,288	△118,131
当期末残高	21,052	21,052	350	-	3,127,226

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失 (△)	△87,285	△74,178
減価償却費	33,262	48,996
のれん償却額	85,927	67,460
減損損失	96,440	-
賃貸借契約解約損	-	11,631
投資有価証券評価損	2,110	59,999
支払利息	11,201	4,520
株式交付費	3,708	-
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	△309,446
投資有価証券売却損益 (△は益)	△26,546	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△208,285	△28,755
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,972	△54,174
未収入金の増減額 (△は増加)	△40,984	△59,811
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	48,309	8,436
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5,838	933
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△78,992	-
未払金の増減額 (△は減少)	112,417	162,904
預り金の増減額 (△は減少)	100,457	161,539
その他	439,432	37,704
小計	478,364	37,762
利息及び配当金の受取額	311	283
利息の支払額	△11,201	△4,520
法人税等の支払額	△121,040	△34,514
営業活動によるキャッシュ・フロー	346,433	△989
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△79,510	△38,903
定期預金の払戻による収入	51,600	86,078
有形固定資産の取得による支出	△32,637	△19,758
無形固定資産の取得による支出	△36,698	△13,446
投資有価証券の取得による支出	△60,000	△50,991
投資有価証券の売却による収入	60,097	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	581,047
その他	△65,499	△7,440
投資活動によるキャッシュ・フロー	△162,648	536,584

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△580,000	-
長期借入れによる収入	180,000	260,000
長期借入金の返済による支出	△345,081	△273,683
社債の発行による収入	321,600	-
社債の償還による支出	△573,600	△288,000
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	△82,000
リース債務の返済による支出	△385	-
株式の発行による収入	1,190,685	2,700
新株予約権の発行による収入	4,914	-
その他	△64	△2,135
財務活動によるキャッシュ・フロー	198,067	△383,118
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	381,852	152,477
現金及び現金同等物の期首残高	2,884,589	3,266,442
現金及び現金同等物の期末残高	3,266,442	3,418,919

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

## 1. 連結貸借対照表

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動資産」の「商品及び製品」及び「仕掛品」は総資産の100分の1以下となったため、「預け金」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「商品及び製品」64,555千円、「仕掛品」82,454千円、「預け金」26,056千円、「その他」91,186千円は、「流動資産」の「その他」264,252千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「無形固定資産」の「ソフトウェア」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「無形固定資産」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」に表示していた「ソフトウェア」37,317千円、「その他」300千円は、「無形固定資産」の「その他」37,618千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「投資その他の資産」の「敷金及び保証金」及び「繰延税金資産」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」に表示していた「敷金及び保証金」149,856千円、「繰延税金資産」21,028千円、「その他」68,844千円は、「投資その他の資産」の「その他」239,730千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「未払法人税等」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「流動負債」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「未払法人税等」33,643千円、「その他」469,185千円は、「流動負債」の「その他」502,829千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「固定負債」の「繰延税金負債」及び「資産除去債務」は明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「固定負債」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」に表示していた「繰延税金負債」11,210千円、「資産除去債務」58,163千円、「その他」83,502千円は、「固定負債」の「その他」152,877千円として組み替えております。

## 2. 連結損益計算書

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「助成金収入」は、営業外収益の総額の100分の10超となったため、当連結会計年度より「営業外収益」の「助成金収入」として独立掲記しております。また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取利息」、「業務受託手数料」及び「講演料・原稿料等収入」は、明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「受取利息」311千円、「業務受託手数料」510千円、「講演料・原稿料等収入」1,120千円及び「その他」9,610千円は、「営業外収益」の「助成金収入」3,600千円、「その他」7,952千円として組み替えております。

### 3. 連結キャッシュ・フロー計算書

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「固定資産除却損」、「新株予約権戻入益」、「受取利息」、「たな卸資産の増減額」、「その他の資産の増減額」及び「その他の負債の増減額」は、明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「固定資産除却損」1,113千円、「新株予約権戻入益」△11千円、「受取利息」△311千円、「たな卸資産の増減額」177,744千円、「その他の資産の増減額」16,359千円及び「その他の負債の増減額」244,537千円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」439,432千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「敷金の差入による支出」及び「敷金の回収による収入」は、明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「敷金の差入による支出」△47,627千円、「敷金の回収による収入」12,468千円及び「その他」△30,340千円は、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」△65,499千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「自己株式の取得による支出」は、明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「自己株式の取得による支出」△64千円は、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」△64千円として組み替えております。

#### (追加情報)

##### (COVID-19の影響に伴う会計上の見積りに関して)

COVID-19の影響に関して、同感染症の今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にあります。現時点において、将来キャッシュ・フロー及び将来の事業環境等の予測にあたって同感染症は、一定の影響を及ぼすものの、限定的であると判断しております。また、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りに関して、重要な影響を与えるものではないと判断しております。しかしながら、今後の状況の変化によっては、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に影響を与える可能性があるため、今後も注視して参ります。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「マッチング事業」、「受託事業」、「ビジネス向けSaaS事業」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、クラウドワークス、クラウドテック、ビズアシ、gravieeを中心とする「オンライン人材マッチング」へ注力するため、2019年10月1日よりマッチング事業への集中を図る組織体制へと変更したことから、当連結会計年度より報告セグメントを変更いたしました。

当社グループは、これまで「ダイレクトマッチング」「エージェントマッチング」「ビジネスソリューション」「フィンテック」「投資育成」の5つを報告セグメントとしておりましたが、従来の報告セグメントである「ダイレクトマッチング」と「エージェントマッチング」のマッチング事業部分を「マッチング事業」として一本化し、「エージェントマッチング」と「ビジネスソリューション」における受託関連事業部分を「受託事業」とし、「ビジネスソリューション」における業務管理ツール関連事業部分を「ビジネス向けSaaS事業」とする3つの報告セグメントに変更し、「フィンテック」「投資育成」は「その他」に含めることに変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するための採用される会計方針に準拠した方法であります。報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であります。

## 4 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	調整額 (注2)	連結損益 計算書 計上額
	マッチング	受託	ビジネス向 けSaaS	計			
売上高							
(1)外部顧客への売上高	5,113,598	3,278,777	55,347	8,447,724	302,089	-	8,749,813
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	30,954	2,753	180	33,888	-	△33,888	-
計	5,144,552	3,281,531	55,527	8,481,612	302,089	△33,888	8,749,813
セグメント利益又は損失(△)	△11,997	55,906	△23,425	20,483	61,424	△33,888	48,020

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資育成事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益又は営業損失との調整を行っております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	調整額 (注2)	連結損益 計算書 計上額
	マッチング	受託	ビジネス向 けSaaS	計			
売上高							
(1)外部顧客への売上高	6,302,964	2,280,574	71,675	8,655,214	73,135	-	8,728,350
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	272	2,307	135	2,714	-	△2,714	-
計	6,303,236	2,282,881	71,810	8,657,929	73,135	△2,714	8,728,350
セグメント利益又は損失(△)	△249,791	80,695	△88,780	△257,877	△37,767	△2,714	△298,359

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資育成事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益又は営業損失との調整を行っております。

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

	報告セグメント				その他 (注1)	調整額 (注2)	連結損益 計算書 計上額
	マッチング	受託	ビジネス向 けSaaS	計			
減損損失	96,440	-	-	96,440	-	-	96,440

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり当期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自2018年10月1日 至2019年9月30日)	当連結会計年度 (自2019年10月1日 至2020年9月30日)
(1) 1株当たり当期純損失金額(△)(円)	△8.63	△3.51
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純損失金額(△)(千円)	△127,604	△53,347
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失金額(△)(千円)	△127,604	△53,347
普通株式の期中平均株式数(株)	14,793,011	15,218,184
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		
(2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—	—
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権の残高がありますが、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。